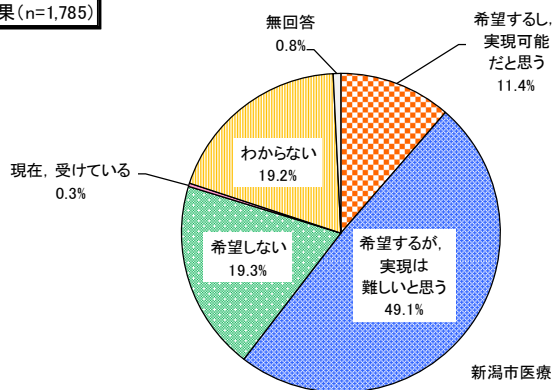


全体結果 (n=1,785)



新潟市医療に関する意識調査 (平成29年9月)

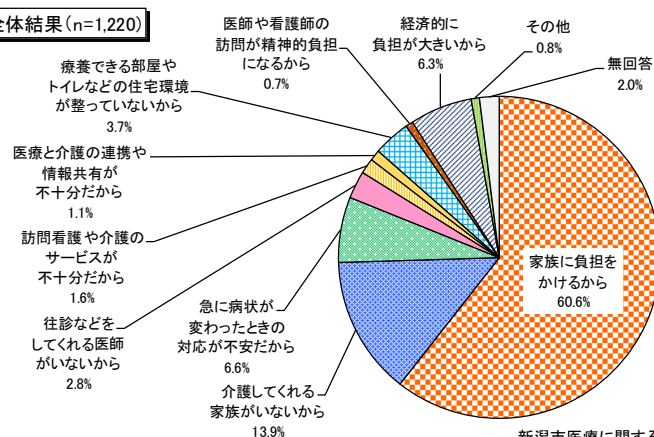
在宅医療を希望しますか？  
実現可能と思いますか？

(回収数 20歳以上1,785人)

- 希望するし実現は可能 1割
- 希望するが実現は難しい 5割
- 希望しない 2割
- わからない 2割



全体結果 (n=1,220)



新潟市医療に関する意識調査 (平成29年9月)

実現は難しいと思う、希望しない理由は？

- 家族に負担をかける 6割
- 介護してくれる家族がない
- 急に病状が変わったときの対応が不安
- 経済的に負担が大きい

- 希望するし実現は可能 1割
- 希望するが実現は難しい 5割
- 希望しない 2割
- わからない 2割



- 家族に負担をかける 6割
- 介護してくれる家族がない
- 急に病状が変わったときの対応が不安
- 経済的に負担が大きい

高齢者を支える家族、勤労世代へも積極的に在宅医療（サービス）について理解を深める  
「おきがる座談会」「区民公開講座」「市民フォーラム」「事業所向けセミナー」「普及啓発冊子」  
「ご当地連携研修会」

ex) 「おきがる座談会」「事業所向けセミナー」において、参加者と対話（ヒアリング）を実施  
「ご当地連携研修会」にて、住民と医療・介護関係者協働のワークショップ等の実施

- 希望するし実現は可能 1割
- 希望するが実現は難しい 5割
- 希望しない 2割
- わからない 2割

＜市民の理解を深める分科会における意見＞

- 知っている人はよく知っているが、興味・関心がない人は全く知らず、二極化している。
- 点ではなく線でつながることが大事。
- 地域の中で各自それぞれの役割がある中で、市民啓発の意識付けの意識を持ち、横展開をして網を上げていくことが大事。
- 独居世帯や老々世帯は自ら学ぶ人が多いと思うが、同居世帯は家族任せで興味を持ちづらいので、子どもや孫を通じて啓発することも有効。
- 興味を引きそうな話題から在宅医療に触れるきっかけを作ると、相談する気になる。

「希望しない」「分からない」方に対しては、地域のいろいろなところで網を張り、在宅医療・介護に興味を持つきっかけをいたる所で作っていく必要がある。  
→各組織が単独で活動するのではなく、各種地域資源と協働し、横の連携を深め、地域として動いていく。